研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 元 年 5 月 1 7 日現在

機関番号: 34516

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2015~2018

課題番号: 15K02670

研究課題名(和文)心身の状態を表すオノマトペの習得研究 医療福祉分野への貢献を視野に入れて

研究課題名(英文)The Acquisition of Japanese Onomatopoetic Words Meaning Sensory Expressions :

For Contribution to Medical, Welfare Services

研究代表者

吉永 尚 (YOSHINAGA, Nao)

園田学園女子大学・人間健康学部・教授

研究者番号:70330438

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3.500,000円

研究成果の概要(和文):介護や看護の現場で多用されるオノマトペを調査し、特に使用頻度が多い痛覚など心身状況表現に関するもの(「ずきずきする」「ざらざらする」など)を取り上げ考察対象とした。これらは一般的に感情や感覚を表す擬態語とされるが、その文法特性や教育方法について、先行研究はそう多くない。本研究ではこれらの文法的性質を分析し、状態性が強いものとそうでないものに分類し、形態的特徴と意味の相関についても考察した。中国語話者を中心とした習得調査では、述語形式などの文法的知識が大きく関与することが判明した。これらの知見を踏まえ、効率的な語彙習得の方策について考察した。研究成果を日中英三か国語用語集 として編集し出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義 介護分野での外国人材の大規模な参入が見込まれるが、日本語支援準備に関しては十分と言えない状況である。 本研究では介護や看護の現場で使用頻度が高いわりに教育で取り上げられることの少ない心身の擬態語を研究対 象とし、文法的性質や中国語・英語との言語対照を踏まえて、効率的習得の方法について考察した。介護・看護 約2500語の中国語・英語対訳用語集『介護・看護の日中英対訳用語集』(和泉書院)を出版した。

研究成果の概要(英文): The aim of this study is to clarify the lexical properties of Japanese mimetic words of mental and bodily states. These haven't been discussed in the grammar, as much as phonetic studies of onomatopoeia. Mimetic verbs have often been unified as stative. However, this study discusses three classes, according to their usage and meanings, and shows that one is stative, and two are not, by comparing their continuity and transitivity. One of the results of this study is clarification of the lexical properties of Japanese mimetic predicates of mental and bodily states. In addition, another result of this study is to suggest the remedy for education of these mimetic predicates, based on the composition of foreign Japanese learners. Finally, for the contribution to the field of care and nursing, we published the book of terminology and conversation of care and nursing which is mentioned in the following: English, Japanese, Chinese, and Chinese pinyin.

研究分野: 日本語教育・日本語学

キーワード: 心身の擬態語 オノマトペの習得研究 擬態語動詞の文法性 擬態語の言語対照 文法知識と習得の相 関 中国語話者の誤用 医療福祉の用語 医療福祉現場の表現

様 式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19(共通)

1.研究開始当初の背景

- (1) 日本語教育において、オノマトペ自体、具体的研究が少なく、心身の状態を表すオノマトペに特化した習得研究は国内外共に前例がなかった。本研究は実態調査に基づいた言語的考察を体系的効率的な教材・教授法に応用する事により、言語学的・教育学的成果が見込まれ、数少ないオノマトペ習得研究の先駆的研究として位置付けられる。また、心身状態表現の理解が必要と思われる医療福祉人材への日本語教育を射程に入れており、今後のニーズが見込まれる。
- (2)中国語話者を対象とした日本語の習得研究は盛んに行われているが、オノマトペについて体系的に誤用実態を調査・考察した研究は無かったので、専門日本語教育、中国語話者の日本語習得研究などの分野に貢献でき、コーパス公開により、言語データの少ない医療福祉分野の基礎的研究として貢献しうる。

2.研究の目的

(1)国際的な医療福祉人材養成は喫緊の課題となっており、日本語教育の立場からもその重要性が指摘されている。とりわけ「胸がどきどきする」「胃がきりきりする」など心身の状態を表すオノマトペの誤解は医療ミスに繋がる危険性があり、学習者に効率的で正確に習得させることが要求される。しかし、その研究はまだ緒についたばかりである。現場では言語データが不足しており、資料の公開・普及は是非必要である。

本研究は以上の問題を解決するため、心身の状態を表すオノマトペの使用実態、習得状況について言語調査を行い、言語対照の観点も踏まえて言語分析を行う。これらの知見を、より効果的な教授法やビジュアルな教材の作成など、日本語教育へ応用する。さらに、研究成果を言語資料コーパスとして公開・普及する。

3.研究の方法

- (1)心身の状態のオノマトペについて、看護辞典や介護ナビなどの資料(CD-ROMを含む)及び医療福祉関連機関(医療福祉機関5か所、従事者・教員など200名)を対象として使用実態調査を行い、使用頻度の高いものを抽出する。これらのオノマトペについて、日中台の日本語教育機関(大学留学生別科、日本語学校、大学日本語班など350名)、医療福祉教育機関(大学医学系・看護系、医療福祉系専門学校など150名)の日本語学習者に対して文法性判断アンケート、穴埋めテストなどで習得状況調査をし、日本語学習者へのインタビュー会話を録音し「作文」授業による作文データを継続的に収集する。
- (2)上記のデータをもとに各レベルでの学習者中間言語コーパスを構築し、公開する。使用頻度の高いオノマトペで、医療福祉教育機関などで特に誤用が多いものを選定し、文法・語彙・言語習慣など様々な側面から誤用原因を分析し、教育面での対応策を考え、効果的な教授法・教材を開発し、最後に報告書を作成する。

4. 研究成果

(1)心身の状況を表すオノマトペについて、動詞性、形容詞性から4種に分類し、素性分析を行った。動詞性を有し擬態語動詞に派生するものに関しては、従来、状態動詞としてみなされる傾向にあったが、継続性や瞬間性などの時間的性質を有するものも一部あることが分かった。

また、中国語話者を中心にオノマトペの習得状況調査を行った結果、品詞分類の知識が語彙理解度に大きく関与することが分かった。オノマトペに後続する形を「だ、する」の中から選択する文末作文調査で、正解率が低いものは、全文作文調査でも正解率が低く相関関係がみられた。作文の誤用データでは「ぞっとだ」「ずきずきだ」「いらいらになる」など品詞分類ができていないためと思われる誤用が多かった。

これらの原因として、現行の日本語教育でオノマトペ教育があまり進んでおらず理解 語彙数が少ない事の他に、教科書による導入では意味性質のまったく異なる擬態語動詞 と擬態語副詞、擬態語形容詞の明確な区分が殆ど示されていないので、品詞分類の知識 がない事などが考えられる。また、痛覚や触覚を表すオノマトペには場所限定性があるが、オノマトペと使用部位を選択させる調査では、一般的に正答率が低く、導入時のコロケーション面の指導が必要と思われる。

医療福祉関係者のための学習コンテンツとして、当該分野で多用されるオノマトペをリストアップし、日中英三か国語で翻訳、発音記号、品詞、音声ガイド付きのスマートフォン用アプリを開発した。

(2)心身状態の擬態語は現場の使用度が高い割には日本語教育では積極的に指導されておらず、これらの擬態語動詞は状態性が高いものと一括りにみなされることが多い。本研究では、これらの擬態語動詞を意味用法で分類し、それぞれの動詞性について詳しく調べ、かなり動作性や時間性をもつものもある程度みられることを発見した。また、形容詞的に用いられるもの、副詞としてのみ用いられるものについても意味用法によって分類し、ぞれぞれの語彙特性について考察を加えた。

さらに、これらの擬態語の習得について国内外の日本語学習者にアンケート質問紙調査 を実施し、習得状況について調べた。(国内7校、中国・台湾12校)

現時点での統計結果では、各語彙の文法的知識(品詞認識)が正用に大きく影響することが解明され、特に、個々の意味情報に加え「する」や「だ」の付加の可否に関する知識が習得に必要であることがわかった。

また、効果的な指導のために文章では表しにくいオノマトペのニュアンスを絵・ビデオ・動画などのビジュアル教材で説明する方法も効果的と思われ、これらの教具教材の 開発を手掛けた。

(3)中国語話者を対象とするオノマトペ習得データの収集とその分析を行い、得られた知見をもとに効率的な学習方法を提案した。また、研究成果を日中英三か国語用語集として出版した。

介護や看護の医療福祉場面で多用されるオノマトペを調査し、特に使用頻度が多いものを抽出した結果、痛覚など心身状況表現に関するものが多くみられた。これらは、感情や感覚を表す擬態語とされ、その文法特性や教育方法について、先行研究は非常に少ない。本研究ではこれらの文法的性質を分析し、また形態的特徴と意味の相関について考察した。

これらの考察結果を踏まえ、最終的に効率的な語彙習得の方策について考察した。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7件)

<u>吉永尚</u>(2016)「心身の状況を表す擬態語動詞についての素性分析」『園田学園女子大学論文集』第50号、pp.21-28.

<u>吉永尚(2017)</u>「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察-中国語話者の作文データをもとに-」『園田学園女子大学論文集』第51号、pp.93-104.

吉永尚(2018)「感情・感覚を表す擬態語動詞の動詞性について—「ずきずきする」と

「ざらざらする」の相違は何か—」『園田学園女子大学論文集』第52号、pp.61-67.

<u>吉永尚(2019)</u>「オノマトペの語形パターンに関する一考察」『園田学園女子大学論文集』第53号、pp.75-81.

<u>吉永尚(2019)</u>「心身の状態を表すオノマトペの習得研究」(招待論文)『地域ケアリング』7月臨時増刊号、pp.95-105、 北隆館.

<u>杉村泰(2017)</u>「日本語のオノマトペ「チクチク」「チクッ」「チクリ」「チクリチクリ」の記述的研究」『ことばの科学』名古屋大学大学院国際言語文化研究科

<u>杉村泰(2018)</u>「日本語のオノマトペ「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」、「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」、「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」の記述的研究」『ことばの科学』名古屋大学大学院国際言語文化研究科

[学会発表](計 7件)

<u>吉永尚(2016)</u>「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察-中国語話者の作文データをもとに-」中国語話者のための日本語教育研究会第35回大会、招待発表、於名古屋大学

<u>吉永尚(2016)</u>「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察」バリ2016日本語教育 国際研究大会、於インドネシア・バリヌサドゥアコンベンションセンター

<u>吉永尚(</u>2016)「感情・感覚を表す擬態語の語彙特性についての考察-擬態語動詞の観察を中心に-」日本言語学会第153回大会、於福岡大学

<u>吉永尚(2018)</u>「心身の状況を表す擬態語の習得についての考察」Bandung Seminar (国際学会)、於インドネシア・バンドン、インドネシア教育大学

<u>杉村泰(2017)</u>「感情・感覚を表す擬態語に関する一考察」第三回上海師範大学・名古屋大学言語文化学術交流会(国際学会)、於中国上海師範大学

<u>杉村泰(2017)</u>「痛みを表す擬態語「ビリビリ」「ジンジン」「チクチク」について」 第15回日本語教育研究集会

<u>杉村泰(2018)</u>「日本語のオノマトペ「ヒリヒリ」「ピリピリ」「ビリビリ」について」 第四回上海師範大学・名古屋大学言語文化学術交流会(国際学会)、於中国上海師範大 学

〔図書〕(計 1件)

<u>吉永尚</u>・廣部久美子(2019)『介護・看護の日中英対訳用語集—「ずきずき」「はっと」は中国語・英語でどう言う?—』和泉書院.

[その他]

吉永尚・廣部久美子(2017)『医療介護日中英health care』スマートフォン用アプリ、アップル社.

<u>吉永尚</u>(2019)「科研著書紹介 医療福祉外国人材の日本語支援によせて 」FM KOBE, What's Going On! ラジオ番組ゲスト出演、2019 4/7,4/14.

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:杉村泰

ローマ字氏名: Yasushi SUGIMURA 所属研究機関名:名古屋大学大学院

部局名:国際言語文化研究科

職名:教授

研究者番号:60324373

(2)研究協力者

研究協力者氏名:廣部久美子

ローマ字氏名: Kumiko HIROBE

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。